

令和2年
火災・救急・救助概要

宝塚市消防本部

目 次

I 火災の概要

1	火災の発生状況	1
2	火災覚知種別の状況	4
3	火災の覚知から現場到着までの所要時間	4
4	初期消火状況	5
5	署所別火災発生状況	5
6	月別・時間別火災発生状況	6
7	出火原因	7
8	火災発生件数の推移	8
9	その他の出動状況	8
10	防災出動状況	9

II 救急の概要

1	救急事故種別出動状況	10
2	傷病程度別搬送状況	11
3	署所別出動状況	12
4	医療機関別搬送状況	13
5	年齢区分別搬送状況	14
6	月別・曜日別出動状況	15
7	救急出動件数の推移	16

III 救助の概要

1	救助事故種別出動状況	17
2	発生場所別活動件数・救助人員状況	18
3	建物内生存者確認による出動状況	19

I 火災の概要

1 火災の発生状況

(1) 火災件数

令和2年中の火災の発生状況は表-1・2・3のとおりで、総件数は27件発生し、前年と比べ1件増加しています。

火災種別ごとでは、建物火災は14件で前年と比べ3件の減少、林野火災は0件で前年と比べ1件の減少、車両火災は4件で前年と同数、その他の火災は9件で前年と比べ5件増加しています。

(2) 焼損棟数・面積等

焼損棟数は、21棟で前年と比べ20棟減少しています。全焼棟数は3棟で前年と比べ10棟減少、半焼棟数は0棟で前年と同数、部分焼棟数は10棟で前年と同数、ぼや棟数は8棟で前年と比べ10棟減少しています。

焼損面積等については、建物焼損面積は428平方メートルで前年と比べ318平方メートル減少、建物焼損表面積は122平方メートルで前年と比べ6平方メートル減少しています。

林野火災は0aで前年と比べ1a減少しています。車両火災の焼損台数は1台で前年と比べ7台減少しています。

(3) 死傷者

令和2年中は死者が1名で前年と比べ3名減少、30日死者が前年と比べ1名増加、負傷者が7名で前年に比べ4名増加しています。

表-1

【火災種別件数】

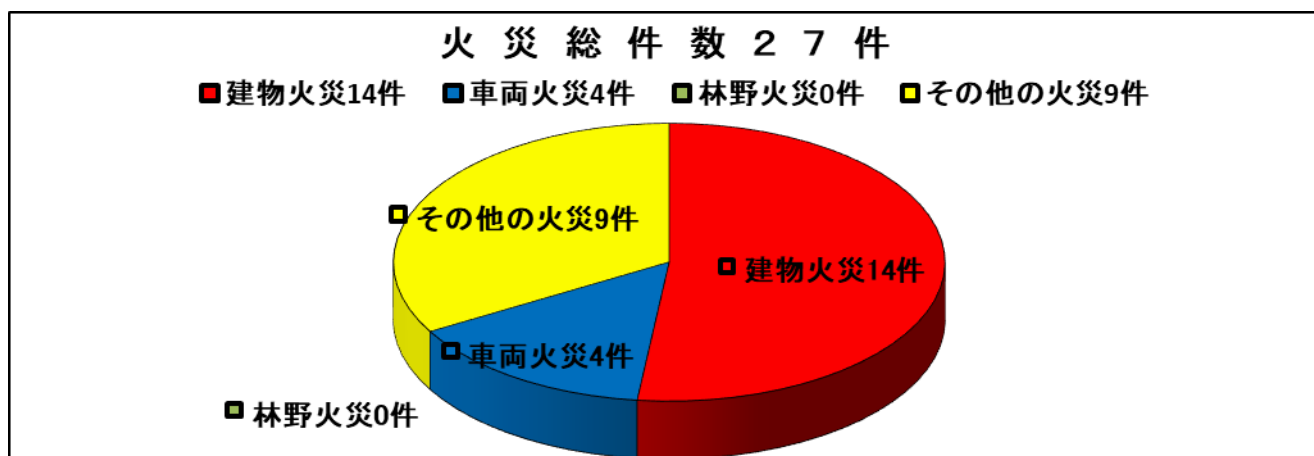


表-2

【前年との対比1】

区 分		単 位	令 和 2 年 (A)	令 和 元 年 (B)	増 減 (A)-(B)=(C)
出 火 件 数			27	26	1
火 災 種 別	建 物	件	14	17	△ 3
	林 野		0	1	△ 1
	車 両		4	4	0
	そ の 他		9	4	5
焼 損 棟 数	合 計	棟	21	41	△ 20
	全 焼		3	13	△ 10
	半 焼		0	0	0
	部 分 焼		10	10	0
	ぼ や		8	18	△ 10
爆 発 損 害 棟 数			0	0	0
焼 損 面 積	建 物	m ²	428	746	△ 318
	建 物 表 面 積	m ²	122	198	△ 76
	林 野	a	0	1	△ 1
	車 両	台	1	8	△ 7
り 災 世 帯 数	合 計	世 帯	29	36	△ 7
	全 損		7	9	△ 2
	半 損		1	0	1
	小 損		21	27	△ 6
り 災 人 員		人	66	92	△ 26

※ 令和2年数値は概算値を含んでおり、確定値ではない。

※ △は減少を示す。

表－3

【前年との対比2】

区 分		単 位	令 和 2 年 (A)	令 和 元 年 (B)	増 減 (A)-(B)=(C)
死 者			1	4	△ 3
負 傷 者	3 0 日 死 者	人	1	0	1
	重 症		0	1	△ 1
	中 等 症		2	1	1
	軽 症		5	1	4
出 動 車 両	合 計	台	203	216	△ 13
	消 防 署		181	194	△ 13
	消 防 団		22	22	0
出 動 人 員	合 計	人	785	809	△ 24
	消 防 署		630	676	△ 46
	消 防 団		155	133	22
建 物 火 災 一 件 当 たり	建 物 焼 損 面 積	m ²	30.6	43.9	△ 13.3
	焼 損 棟 数	棟	1.5	2.4	△ 0.9
	り 災 世 帯	世帯	2.1	2.1	0.0
	り 災 人 員	人	4.7	5.4	△ 0.7
林 野 火 災 一 件 当 たり	焼 損 面 積	a	0.0	1.0	△ 1.0
出 火 率		件	1.2	1.2	0

※ 火災により負傷した後48時間以内に死亡したものは火災による死者とし、負傷者のうちで火災に起因する原因により48時間を経過して30日以内に死亡した者を「30日死者」とする。

※ 出火率は人口1万人当たりの出火件数をいう。

$$\text{出火率(件)} = \text{出火件数} \div \text{人口} \times 10,000$$

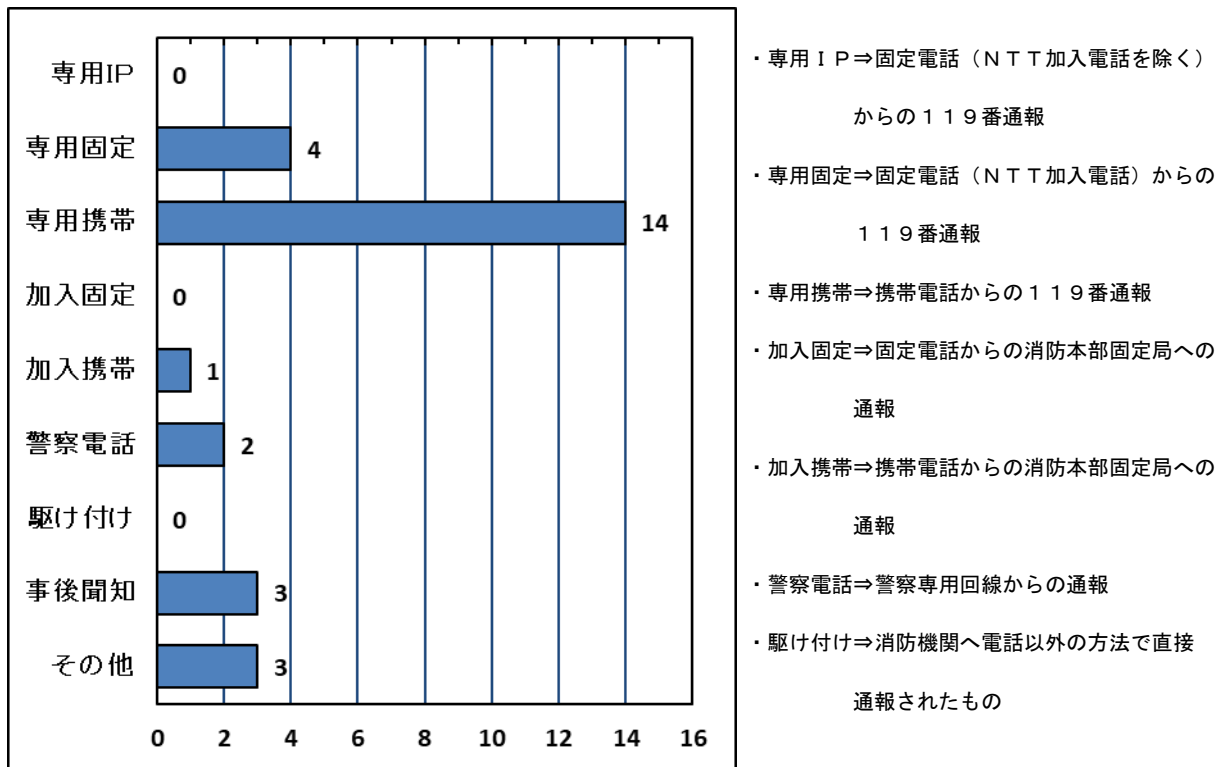
※ 令和2年数値は概算値を含んでおり、確定値ではない。

※ △は減少を示す。

2 火災覚知種別の状況

令和2年中に火災を覚知する種別で最も多かったのは、携帯電話からの119番通報で14件でした。

表-4 【火災覚知種別状況】



3 火災の覚知から現場到着までの所要時間

令和2年中に発生した27件の火災から、事後聞知の火災3件を除いた24件の火災について、119番通報を受信してから、出動、現場到着までに要した時間の平均値は下表のとおりです。

表-5 【所要時間の平均値】

区分	覚知～出動	出動～現着	覚知～現着
全市域	1分8秒	5分10秒	6分18秒

※ 覚知とは消防機関が火災等の災害を認知することをいう。

4 初期消火状況

令和2年中に発生した27件の火災のうち、初期消火が行われたのは17件で、初期消火に成功した件数は13件でした。

表－6 【初期消火の実施件数】

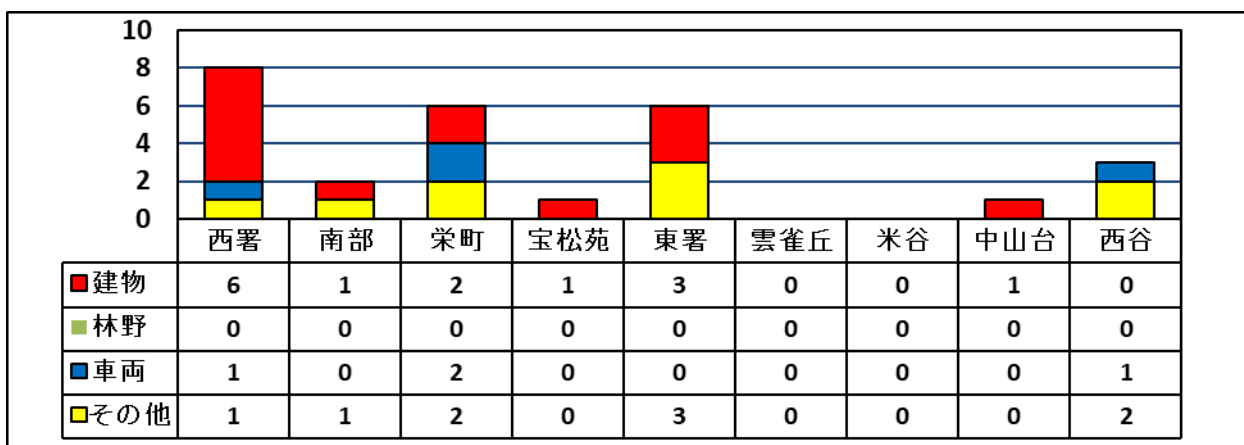
初期消火実施件数 消火種別	合 計 【17件】	建 物 【10件】	林 野 【0件】	車 両 【3件】	そ の 他 【4件】
水 パ ケ ッ ツ					
強 化 液 消 火 器					
粉 末 消 火 器	1 (1)			1 (1)	
水道、浴槽、汲み置き等の 水 を か け た	9 (6)	5 (2)		1 (1)	3 (3)
寝具、衣類等をかけた	3 (3)	2 (2)		1 (1)	
屋 内 消 火 栓 設 備	1 (1)	1 (1)			
そ の 他	3 (2)	2 (2)			1
合 計	17 (13)	10 (7)	0 (0)	3 (3)	4 (3)

※ () 内の数字は初期消火に成功した件数を示す。

5 署所別火災発生状況

各署所の管轄、受持地区内で発生した火災件数は表－7のとおりで、西署が最も多く8件発生しています。

表－7 【署所別火災発生件数】



6 月別・時間別火災発生状況

月別の火災発生状況は、8月が5件と最も多く、次いで11月が4件と多く発生しています。

表-8 【月別・時間別火災発生件数】

区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	
建 物				2		1	2	1	1	2	4	1	14	
林 野													0	
車 両	1	1						1		1			4	
その他			2	1	1	1	1	3					9	
計	1	1	2	3	1	2	3	5	1	3	4	1	27	
0 ~ 1													0	1
1 ~ 2											1	1	1	
2 ~ 3												0	0	
3 ~ 4													0	2
4 ~ 5						1				1			2	
5 ~ 6													0	
6 ~ 7													0	1
7 ~ 8													0	
8 ~ 9	1												1	
9 ~ 10							1	1					2	7
10 ~ 11													0	
11 ~ 12			2	1				1			1		5	
12 ~ 13											1		1	5
13 ~ 14					1			2					3	
14 ~ 15											1		1	
15 ~ 16								1					1	3
16 ~ 17				1			1						2	
17 ~ 18													0	
18 ~ 19		1							1		1		3	6
19 ~ 20				1									1	
20 ~ 21						1				1			2	
21 ~ 22							1			1			2	2
22 ~ 23													0	
23 ~ 24													0	
不 明													0	

※ () 内の数字は、出火原因が放火及び放火の疑いの件数を示す。

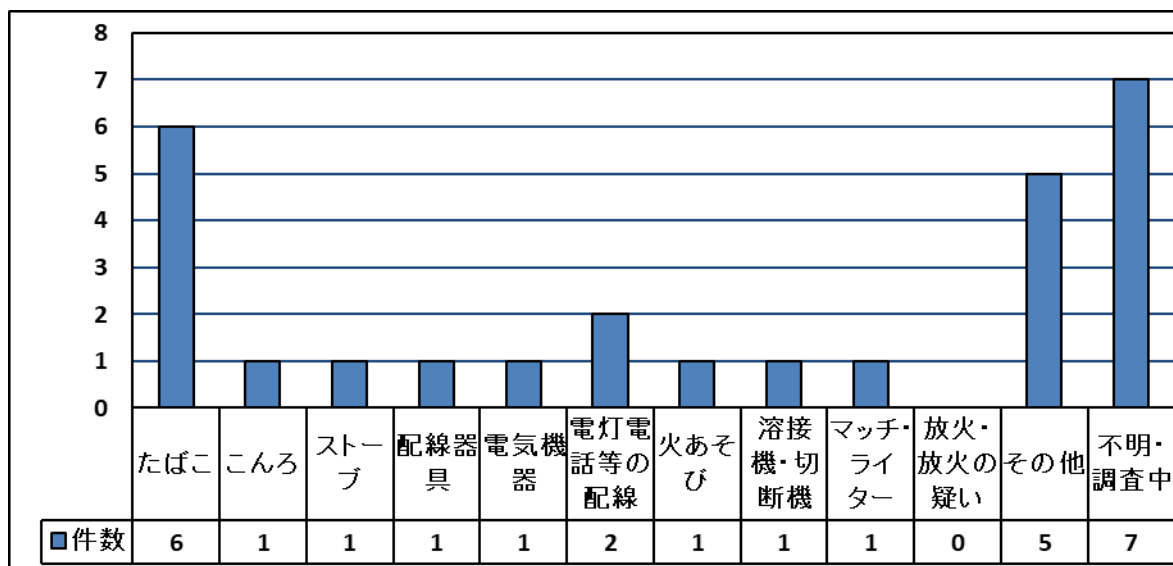
7 出火原因

出火原因別では、たばこが6件、次いで電灯電話等の配線が2件となっています。

放火・放火の疑いは昨年5件から5件減少しています。

表－9

【出火原因別火災件数】



表－10

【火災種別毎の原因件数】

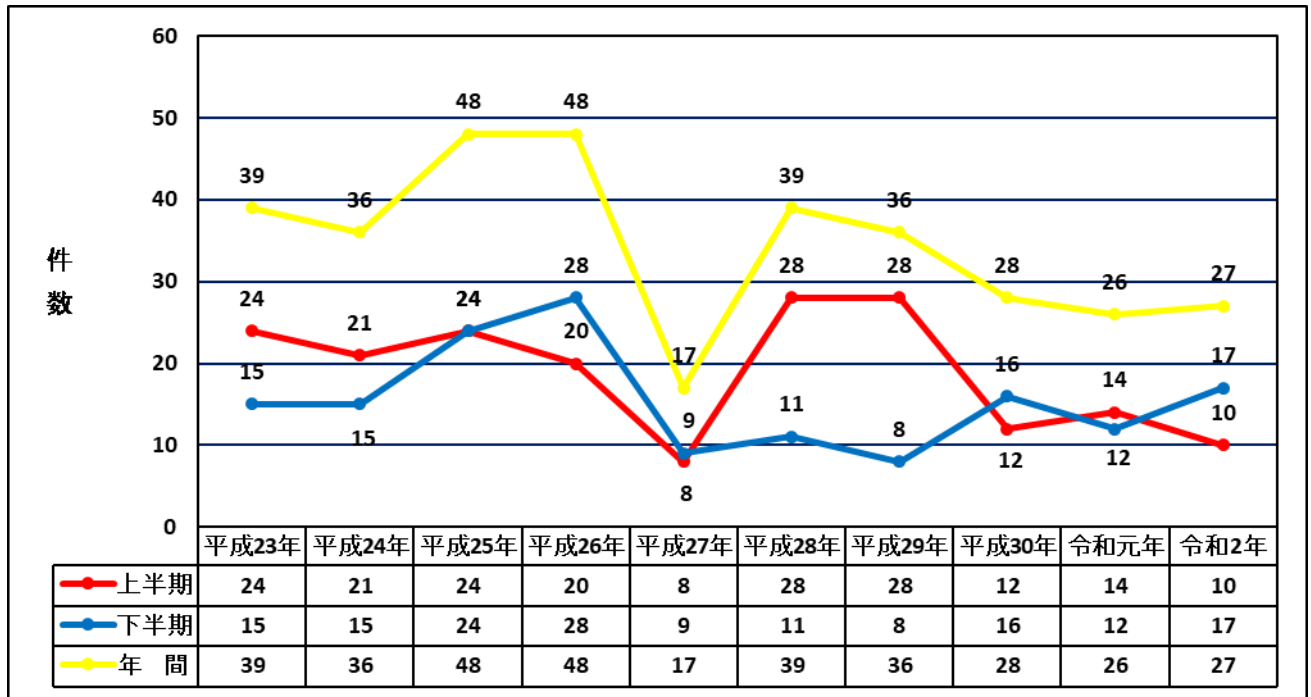
出火原因	合計	建物火災	林野火災	車両火災	その他の火災
たばこ	6	2		1	3
こんろ	1	1			
ストーブ	1	1			
配線器具	1	1			
電気機器	1	1			
電灯電話等の配線	2	1			1
火あそび	1				1
溶接機・切断機	1				1
マッチ・ライター	1	1			
放火・放火の疑い	0				
その他	5	2		1	2
不明・調査中	7	4		2	1
合計	27	14	0	4	9

8 火災発生件数の推移（過去10年間）

過去10年間の発生の推移をみると、年間件数平均値は34.4件となっており、平成27年は過去最少となる17件を記録しました。

表-11

【火災発生件数の推移（過去10年間）】



9 その他の出動状況

火災以外の災害等の出動状況は、表-12のとおり808件（前年780件）出動し、これは1日に約2.2件の割合で出動したことになります。

表-12

【その他の災害出動件数】

区分	合計	火災に至らず	誤報 誤認 虚報	たき火	警戒	油流出	自火報	自火報 直接	特定 救急	他市 応援 (一般)	他市 応援 (高速)	捜索	非警報 発報	都市型 漏洩	その他
出動件数	808	20	34	7	165	33	63	3	428	33	9	3	1	1	8
出動台数	1,209	95	286	10	174	39	66	11	444	49	11	14	1	1	8
出動人員	4,635	350	1,010	37	685	151	265	43	1,799	164	47	42	4	4	34

※ 特定救急は、救急現場に消防車も同時出動することをいう。

10 防災出動状況

風雨等による災害の出動状況は、表－13のとおり67件（前年68件）出動し、前年より1件減少しています。

表－13

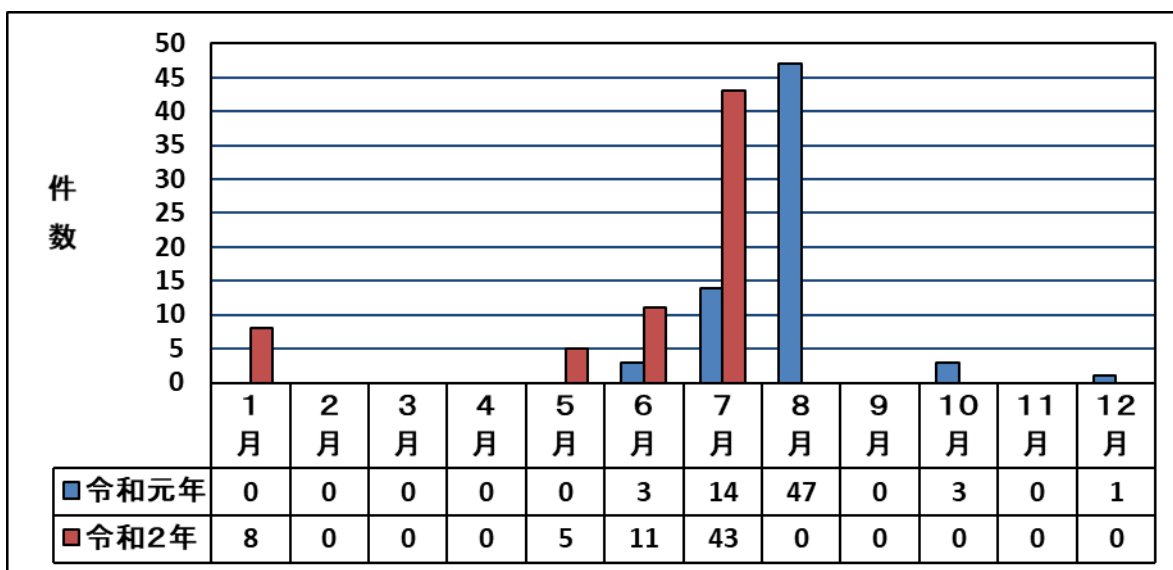
【防災出動件数】

区 分		令和2年 (A)	令和元年 (B)	増 減 (A)-(B)=(C)
風水害	出 動 件 数	24	11	13
	出 動 台 数	30	14	16
	出 動 人 員	104	45	59
警戒巡視	出 動 件 数	43	57	△ 14
	出 動 台 数	44	59	△ 15
	出 動 人 員	163	223	△ 60
合計	出 動 件 数	67	68	△ 1
	出 動 台 数	74	73	1
	出 動 人 員	267	268	△ 1

※ 警戒巡視とは、時間雨量又は連続雨量が規定値を超えた場合に、市内の水害危険予想箇所等の巡視を行うことをいい、風水害とは、風雨等に伴う出動で、警戒巡視以外の出動のことをいう。

表－14

【月別防災出動件数】



II 救急の概要

1 救急事故種別出動状況

令和2年中の救急出動件数は10,772件で、前年より1,350件減少しました。1日平均29.4件の割合で救急出動したことになります。事故種別では、急病、一般負傷、交通事故が全体の88.8%を占め、特に急病は、64.0%を占めています。

表-1

【前年との対比】

区 分	令 和 2 年 A	令 和 元 年 B	増 減 A - B = C
出 動 件 数	10,772	12,122	△ 1,350
傷 病 者 搬 送 件 数	9,784	10,999	△ 1,215
不 搬 送 件 数	988	1,123	△ 135
火 災	14	17	△ 3
自 然 災 害	0	0	0
水 難	3	2	1
交 通	566	695	△ 129
労 働 災 害	63	82	△ 19
運 動 競 技	29	55	△ 26
一 般 負 傷	2,105	2,287	△ 182
加 害	40	29	11
自 損 行 為	101	86	15
急 病	6,897	7,805	△ 908
転 院 搬 送	799	846	△ 47
医 師 搬 送	4	53	△ 49
医 療 資 器 材	0	0	0
そ の 他	151	165	△ 14
1 日 平 均	29.4	33.2	△ 3.8
覚 知 ~ 現 場 到 着	7分46秒	7分30秒	16秒
覚 知 ~ 病 院 到 着	35分39秒	34分45秒	54秒

※ △は減少を示す。

2 傷病程度別搬送状況

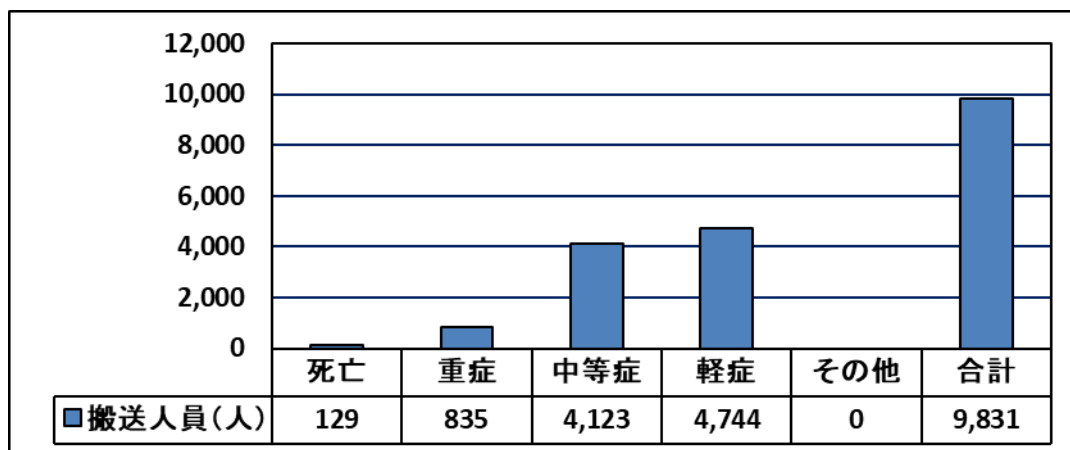
令和2年中の病院への搬送人員は9,831人で、前年の11,054人に比べ、1,223人減少しました。また、市民22.9人に1人が救急車で運ばれたこととなります。事故種別では、搬送人員が多い順で、急病(6,321人)、一般負傷(1,980人)、交通(538人)の順となっています。傷病程度別では、死亡、重症、中等症の傷病者の割合は51.7%、入院の必要なしと診断された軽症の傷病者は4,744人で48.3%を占めています。

表-2-1 【前年との対比】

区 分	令 和 2 年 A	令 和 元 年 B	増 減 A - B = C	傷 病 程 度					合 計
				死 亡	重 症	中 等 症	軽 症	そ の 他	
搬送人員	9,831	11,054	△ 1,223	129	835	4,123	4,744	0	9,831
火 災	4	3	1	0	1	2	1	0	4
自然災害	0	0	0	0	0	0	0	0	0
水 難	1	0	1	0	1	0	0	0	1
交 通	538	655	△ 117	2	20	100	416	0	538
労働災害	61	78	△ 17	0	3	14	44	0	61
運動競技	29	55	△ 26	0	0	7	22	0	29
一般負傷	1,980	2,120	△ 140	7	214	579	1,180	0	1,980
加 害	33	21	12	0	5	3	25	0	33
自損行為	66	69	△ 3	4	14	32	16	0	66
急 病	6,321	7,208	△ 887	115	432	2,821	2,953	0	6,321
そ の 他	798	845	△ 47	1	145	565	87	0	798

※ △は減少を示す。

表-2-2 【傷病程度別搬送人員】



3 署所別出動状況

総出動件数10,772件のうち、西消防署（南部出張所、栄町出張所含む）が7,159件（66.5%）、東消防署（雲雀丘出張所、西谷出張所含む）が3,608件（33.5%）、その他（非常用編成）が5件出動しています。

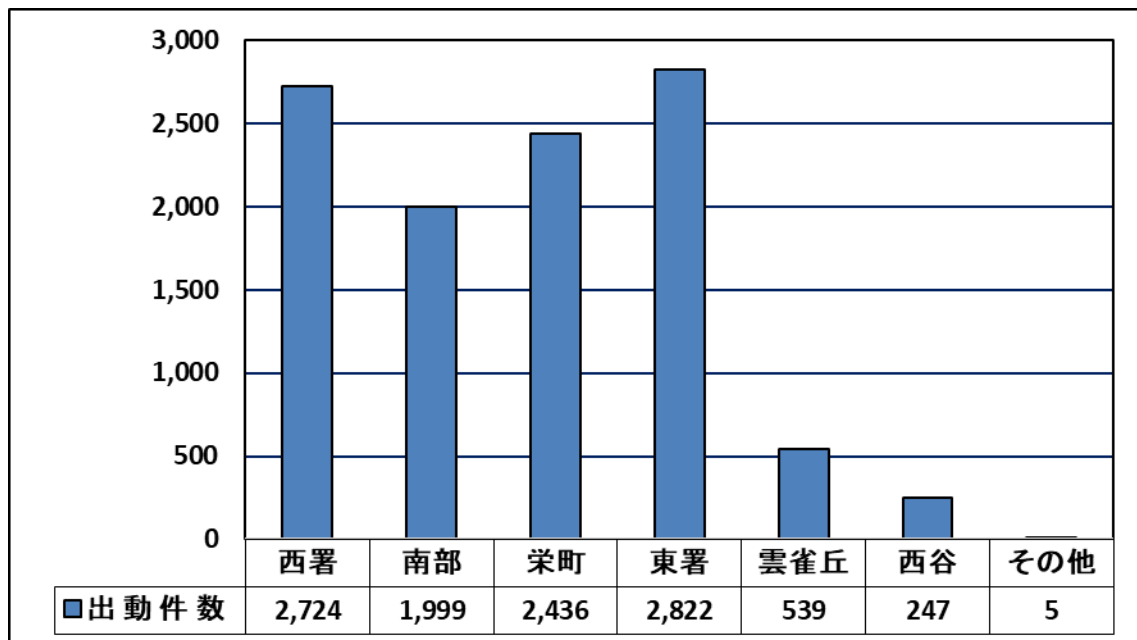
表-3-1

【署所別出動件数1】

区 分	合 計	西 消 防 署				東 消 防 署				そ の 他 小 計
		小 計	本 署	南 部 出 張 所	栄 町 出 張 所	小 計	本 署	雲 雀 丘 出 張 所	西 谷 出 張 所	
出 動 件 数 (件)	10,772	7,159	2,724	1,999	2,436	3,608	2,822	539	247	5
構 成 比 (%)	100.0	66.5	25.3	18.6	22.6	33.5	26.2	5.0	2.3	0.0
1 日 平 均 (件)	29.4	19.6	7.4	5.5	6.7	9.9	7.7	1.5	0.7	0.0
1 カ 月 平 均 (件)	897.7	596.6	227.0	166.6	203.0	300.7	235.2	44.9	20.6	0.4

表-3-2

【署所別出動件数2】



4 医療機関別搬送状況

搬送状況を収容医療機関別に区分すると、搬送人員の95.0%を占める9,341人が救急告示病院に搬送され、490人がその他の医療機関に搬送されました。

また、市内の救急告示病院への搬送人員は6,880人で全体の70%を占め、その他の医療機関を含めると6,908人となり市内へは70.3%が搬送されたこととなります。

※ その他の場所は、診療のため接骨院へ搬送及び医療機関へ収容目的でヘリポートへ搬送した場合などをいうが該当はなかった。

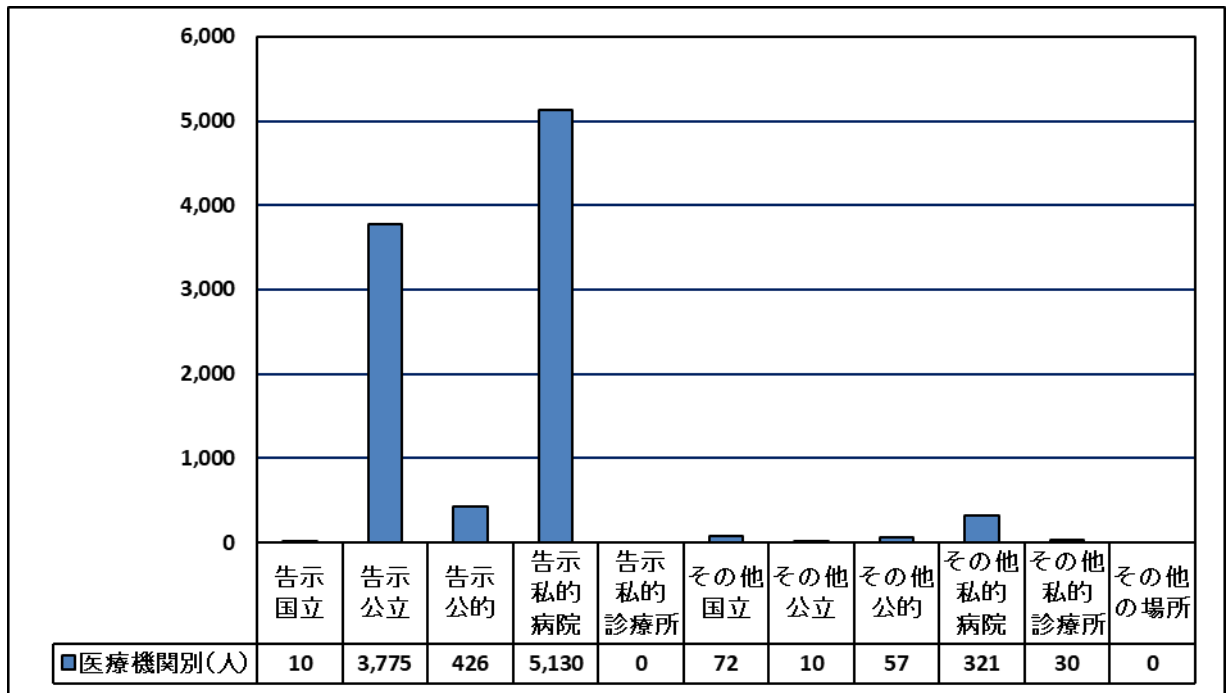
表-4-1

【医療機関別搬送状況1】

区分	救急告示医療機関						その他の医療機関						その他の場所	合計 (人)
	国立	公立	公的	私的		計	国立	公立	公的	私的		計		
				病院	診療所					病院	診療所			
市内	0	2,835	0	4,045	0	6,880	0	1	0	4	23	28	0	6,908
市外	10	940	426	1,085	0	2,461	72	9	57	317	7	462	0	2,923
合計	10	3,775	426	5,130	0	9,341	72	10	57	321	30	490	0	9,831

表-4-2

【医療機関別搬送状況2】



5 年齢区分別搬送状況

搬送状況を年齢区分別にみると、新生児が65人(0.7%)、乳幼児が339人(3.4%)、少年が287人(2.9%)、成人が2,539人(25.8%)、高齢者が6,601人(67.1%)となっています。高齢者の搬送割合が高く、高齢者の急病は、4,358人で、高齢者全体の搬送のうち66.0%を占めます。また、高齢者の一般負傷についても、他の年齢区分から比較すると高い値となっています。

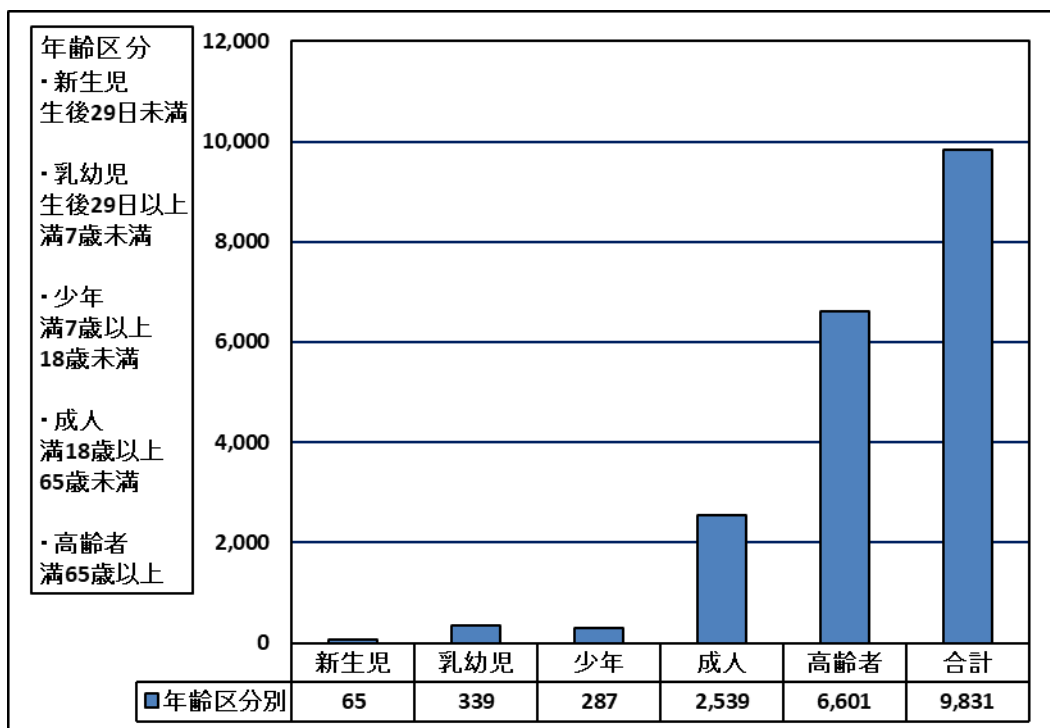
表-5-1

【年齢区分別搬送状況1】

区分	火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他	合計
新生児	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	62	65
乳幼児	0	0	0	12	0	0	111	0	0	209	7	339
少年	0	0	0	46	0	15	63	3	5	144	11	287
成人	4	0	1	331	48	12	242	24	51	1,607	219	2,539
高齢者	0	0	0	149	13	2	1,564	6	10	4,358	499	6,601
合計	4	0	1	538	61	29	1,980	33	66	6,321	798	9,831

表-5-2

【年齢区分別搬送状況2】



6 月別・曜日別出動状況

月別出動件数は、1月、8月が1,000件を超え、特に8月は熱中症（疑いを含む）の救急要請が増えたことにより、増加傾向が顕著となっています。

他の月は、概ね900件程度で推移しています。

表-6-1

【月別出動件数】

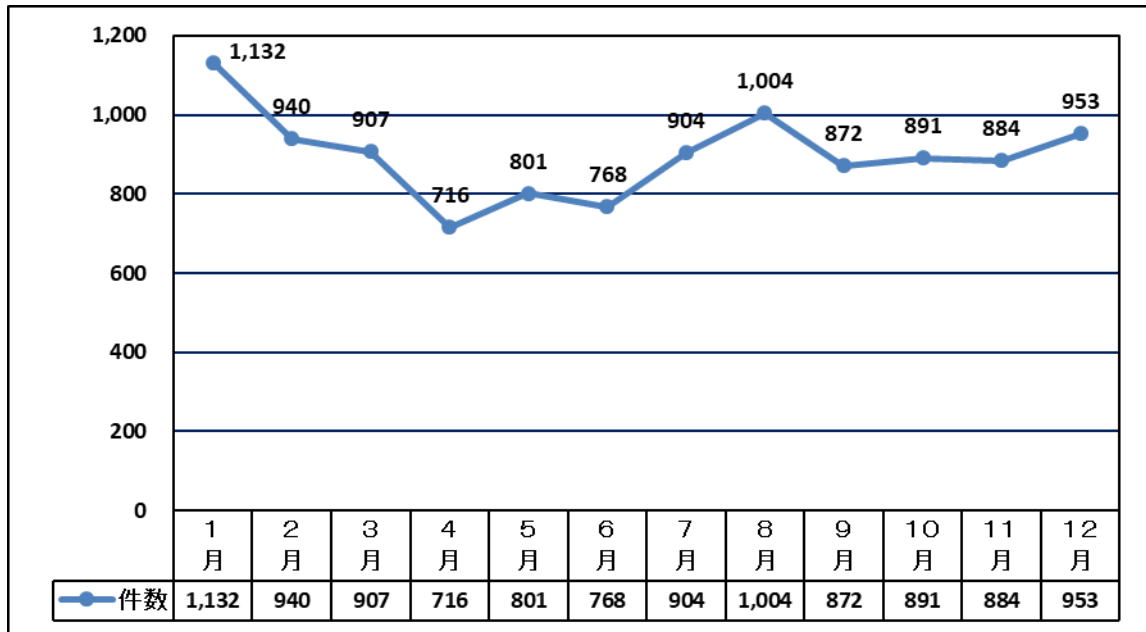
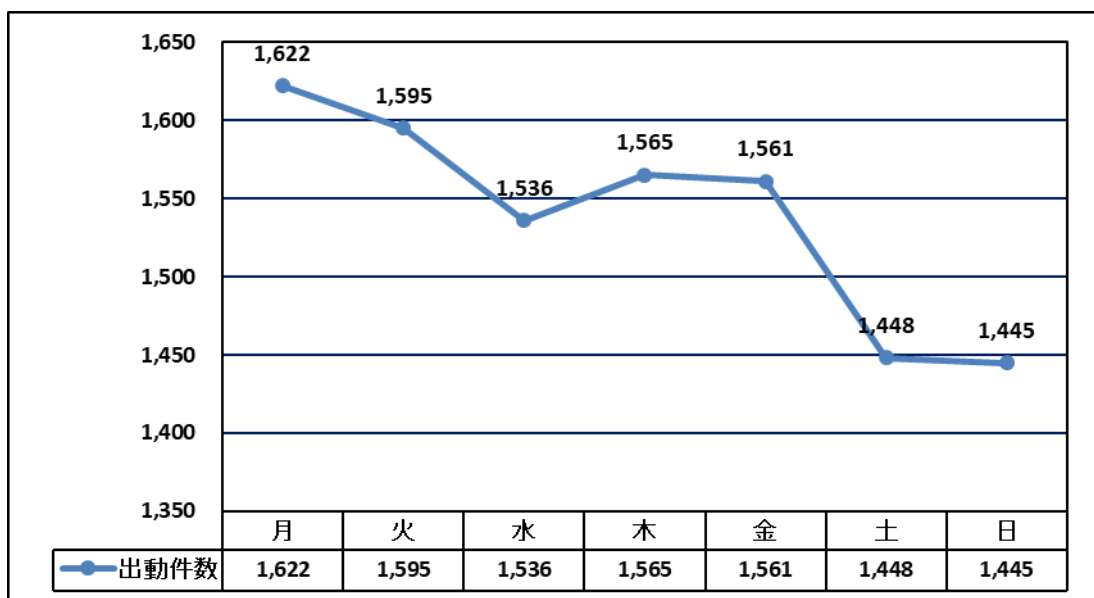


表-6-2

【曜日別出動件数】

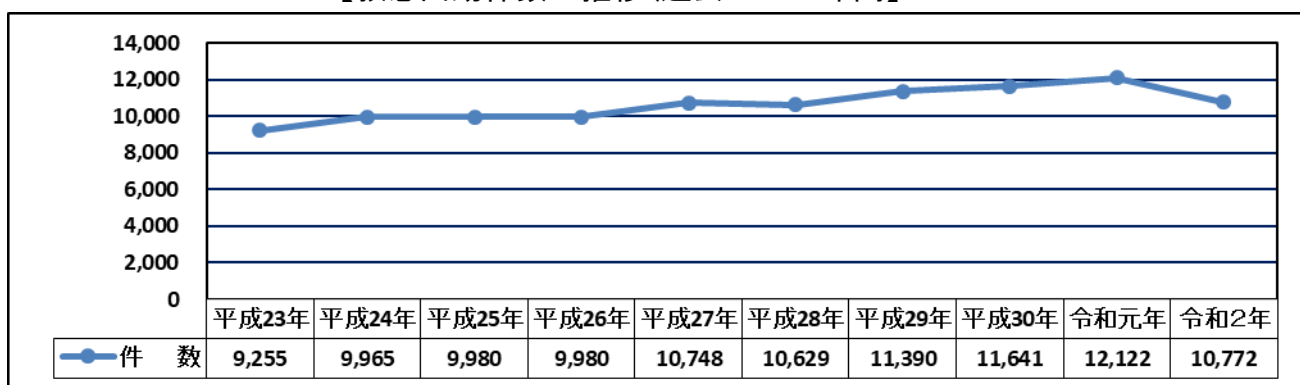


7 救急出動件数の推移

過去10年間の推移をみると、平成22年から26年まで、8,000件台から9,000件台後半で推移していましたが、平成27年からは10,000件を超え、平成29年、平成30年は11,000件台で推移し、令和元年は12,000件を超えました。

しかしながら、令和2年は新型コロナウイルス感染症の発生以来、救急出動件数は減少傾向となり、11,000件を下回っています。

表-7-1 【救急出動件数の推移(過去の10年間)】



救急出動件数の多くを占める、急病、交通事故、一般負傷の過去10年の推移は、下表-7-2のとおりです。

表-7-2 【急病・交通事故・一般負傷の出動件数(過去10年間)】

区分	急病	交通事故	一般負傷	その他
平成23年	5,842	760	1,660	993
平成24年	6,265	822	1,789	1,089
平成25年	6,369	779	1,686	1,146
平成26年	6,319	765	1,749	1,147
平成27年	6,775	817	1,974	1,182
平成28年	6,829	755	1,891	1,154
平成29年	7,196	823	2,077	1,294
平成30年	7,420	772	2,137	1,312
令和元年	7,805	695	2,287	1,335
令和2年	6,897	566	2,105	1,204

※ その他とは、火災、労働災害、運動競技、加害、自損行為、転院搬送及びその他の出動件数を示す。

Ⅲ 救助の概要

1 救助事故種別出動状況

令和2年中の救助出動件数は220件で、前年に比べ22件減少しました。救助活動件数は181件で前年より13件減少し、救助人員は141名で18名減少しました。

事故種別ごとの救助出動件数をみると、自然災害、ガス及び酸欠事故、破裂事故等の発生はなく、建物等の事故が多く発生しています。

表-1-1

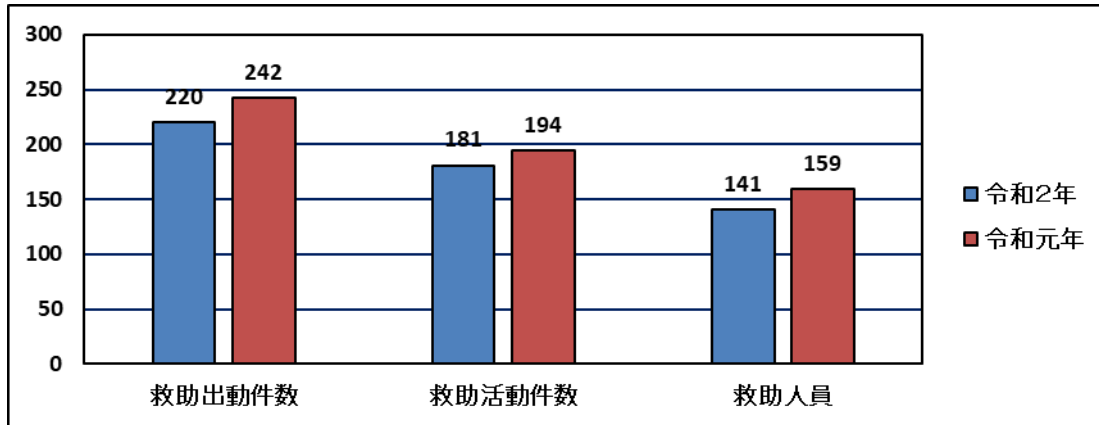
【前年との対比】

区分		令和2年	令和元年	増減
		(A)	(B)	(A)-(B)=(C)
救助出動件数		220	242	▲ 22
救助活動件数		181	194	▲ 13
救助人員		141	159	▲ 18
出動人員	救助隊専任	1613	1709	▲ 96
	救助隊兼任	71	163	▲ 92
	消防隊	1046	1015	31
	救急隊	658	691	▲ 33
火災	建物	3	4	▲ 1
	建物外	0	0	0
交通事故		20	28	▲ 8
水難事故		1	1	0
風水害等自然災害		0	0	0
機械による事故		5	0	5
建物等による事故		96	102	▲ 6
ガス及び酸欠事故		0	0	0
破裂事故		0	0	0
その他の事故		95	107	▲ 12

※ ▲は減少を示す。

表－１－２

【救助出動件数・救助活動件数及び救助人員】



2 発生場所別活動件数・救助人員状況

救助活動件数は181件で前年より13件減少し、救助人員は141名で18名減少しました。

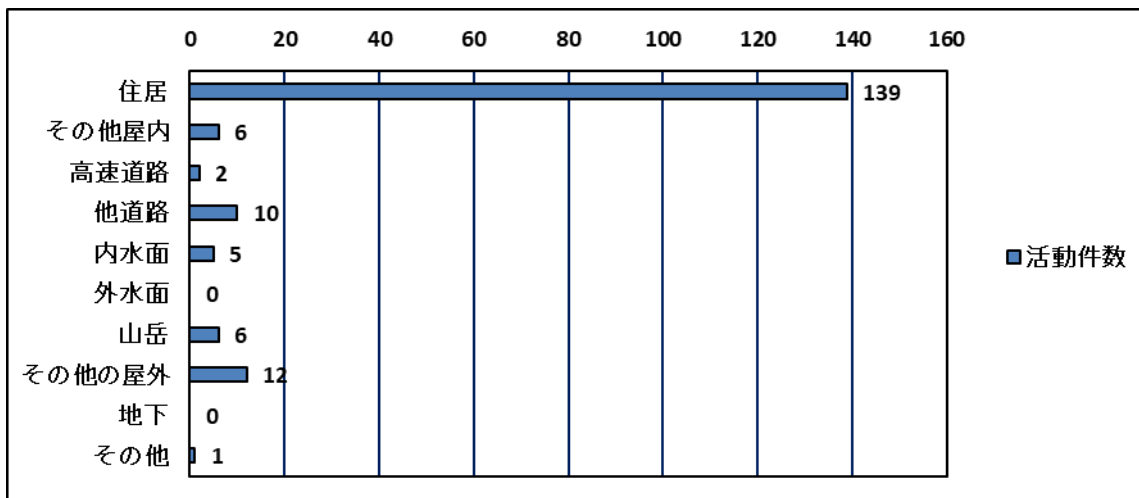
表－２－１

【発生場所別活動件数・救助人員】

区分	活動件数	屋内		屋外						地下	その他
		住居	その他屋内	道路		水面		山岳	その他の屋外		
				高速道路	他道路	内水面	外水面				
救助人員											
火災	建物	3	3								
	建物以外	3	3								
交通事故		13		2	8	2			1		
		14		2	9	2			1		
水難事故		1				1					
		1				1					
自然災害											
機械による事故		4	4								
		5	5								
建物等による事故		93	92	1							
		95	94	1							
ガス及び酸欠事故											
破裂事故											
その他		67	44	1	2	2		6	11	1	
		23	4	0	2	1		6	10		
合計		181	139	6	2	10	5		6	12	1
		141	101	6	2	11	4		6	11	

表－２－２

【発生場所別活動件数】



3 建物内生存者確認による出動状況

建物内生存者確認による出動状況は、令和2年中の救助出動220件の内、建物内生存者確認による出動は105件で、48%を占めています。

表－３－１

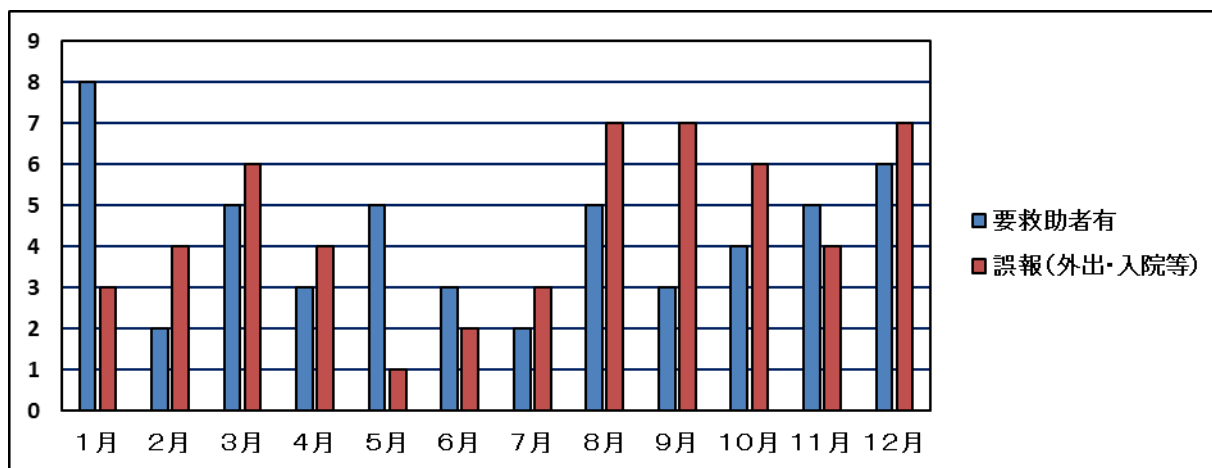
【建物内生存者確認による月別出動件数1】

事故種別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
要救助者有	8	2	5	3	5	3	2	5	3	4	5	6	51
誤報(外出・入院等)	3	4	6	4	1	2	3	7	7	6	4	7	54
合計	11	6	11	7	6	5	5	12	10	10	9	13	105

※ 誤報とは、建物内における生存者確認のために出動したが、外出、入院等で不在の場合や、在宅中であり、呼び出しに対し出てくる場合及び睡眠中、いたずら等をいう。

表－３－２

【建物内生存者確認による月別出動件数2】



表－３－３

【建物内生存者確認による出動の内、年齢別の人数１】

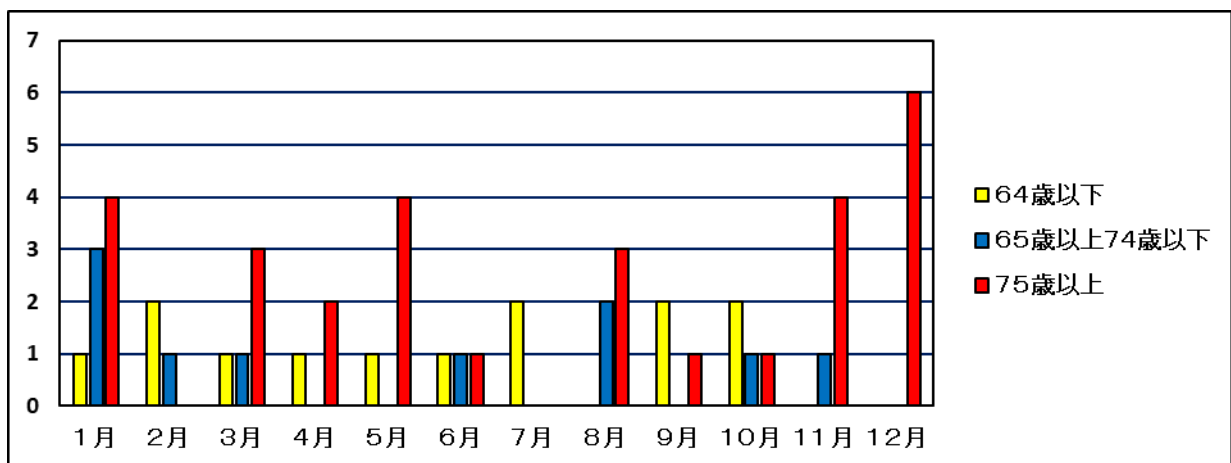
(誤報は除く)

種別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
64歳以下	1	2	1	1	1	1	2		2	2			13
高齢者(65歳以上74歳以下)	3	1	1			1		2		1	1		10
後期高齢者(75歳以上)	4		3	2	4	1		3	1	1	4	6	29
合計	8	3	5	3	5	3	2	5	3	4	5	6	52

※ 建物内生存者確認(誤報は除く)による出動の内、高齢者及び後期高齢者が占める割合は全体の75%である。

表－３－４

【建物内生存者確認による出動の内、年齢別の人数２】



表－３－５

【建物内生存者確認による出動の内、年齢別の死亡者数】

(誤報は除く)

種別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
64歳以下		2		1	1		2			1			7
高齢者(65歳以上74歳以下)	2	1	1			1		2					7
後期高齢者(75歳以上)	1		2	1	1	1		1		1	3	2	13
合計	3	3	3	2	2	2	2	3	0	2	3	2	27

※ 建物内生存者確認(誤報は除く)による出動に係る死亡者数の内、高齢者及び後期高齢者が占める割合は全体の74%である



宝塚市消防本部